HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	工業集積地域における児童・生徒の生活と親の意識：はしがき
Author(s)	小内, 透
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 17
Issue Date	1999-06
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/24468
Type	departmental bulletin paper
File Information	17_Hashigaki.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

はしがき

本報告書は、北関東工業集積地域の小中学生とその親を対象とした、児童・生徒と親の生活・意識に関する調査研究をまとめたものである。

私たちの研究グループでは北関東工業集積地域を対象にした社会学的調査研究を、1994年以来継続して行っている。その目的は、激しい社会変動・経済変動の中で、地域社会や地域住民がいかなる課題を抱えるようになっているのか、この点を工業集積の進む特定の地域を対象にして明らかにすること、そしてそれを通して地域社会をとらえ直す新しい方法・視点を探ることにある。それは、新たな地域社会づくりのための基礎資料を提示することにもつながる。

本調査研究に関しては、すでに「工業集積地域における階級・階層構造と労働―生活世界」『調査と社会理論・研究報告書』第15号、1997年、「工業集積地域における高校間格差と高校生の生活・意識」『調査と社会理論・研究報告書』第16号、1998年を、研究成果の一端としてとりまとめている。本書は、これに続く「北関東工業集積地域の社会学的基礎研究」の第3弾にあたる。また、『調査と社会理論・研究報告書』のシリーズ以外にも、小内純子「地方行政と住民組織――群馬県太田市の自治体―行政区―地域住民の関連分析を中心に――」、藤井史朗「群馬県太田市における製造業中小企業の存在形態」（ともに『調査と社会分析』No.1、札幌学院大学人文学部社会調査室、1997年所収）、酒井恵真・小内透「外国人労働者の定住化と地域社会」地域社会学会編『地域社会学会年報』第11集、1999年、『調査と社会分析』No.3、札幌学院大学人文学部社会調査室、1999年の「特集　日系ブラジル人の定住化と地域社会」などの成果がある。

これらの北関東工業集積地域を対象にした社会学的調査研究の中で、本調査報告書は「工業集積地域における高校間格差と高校生の生活・意識」に続いて、当地域における教育課題の一端にせまったものである。

その際、本報告書では、「工業集積地域における高校間格差と高校生の生活・意識」と同様、教育課題の中でも、目に見えにくく、それゆえに根深い問題性をはらむ「階級・階層と教育」の関わりに焦点をあてている。これは、近年、社会学、教育社会学の分野で「階級・階層構造の社会的再生産」、「教育を媒介にした階層的再生産」の問題として議論されているテーマである。その意味で、本報告書は、直接的には北関東工業集積地域の児童・生徒とその親を対象にして、「階級・階層構造の社会的再生産」、「教育を媒介にした階層的再生産」に関わる現実を実証的に把握し、そこに存在する課題を明らかにするというねらいをもっている。そのため、すでに公表した「工業集積地域における高校間格差と高校生の生活・意識」と合わせると、小中高校生まで含めた幅広いパースペクティブの中で、問題がよりいっそう浮き彫りになると思われる。

本報告書のもとになったアンケート調査は、太田市の9小学校、9中学校に通う小３、小５、中２の児童・生徒とその両親、約3,200組を対象として、1996年9～10月に実施されたものである。調査からすでに3年が経ち、当時の小学校５年生は中学生になり、中学生はすでに卒業してしまった。当時、お世話になった校長先生を始めとする諸先生方、教育委員会の職員の皆さんのうち、職場が変わってしまった方も少なくないと思う。できるだけ早く報告書をまとめ、調査結果を関係者各位にお返ししたいと考えていたが、ここまで時間がかかってしまい、本当に申し訳なく思っている。この場を借りて、調査対象となった児童・生徒、父母の皆さん、そして調査の実施に協力いただいた関係各位の皆様に、お詫びするとともに、改めて本調査研究に対するご協力に対し感謝の意を表する次第である。

本報告書が、何らかの形で参考になればと願っている。

北海道大学教育学部教育社会学研究室
小内　透